

# 復興よりも先に、 やるべきことはなないと思おう。

この写真は、平成24年2月18日、宮城県亘理郡で撮影されました。何もかもが流された東北最大のイチゴ産地に、希望を灯したのは、人が人を想う心でした。

全国のJAから駆けつけたボランティア、延べ2500人以上。

栃木県の農家から届いたイチゴの苗、100万本。

荒れ地を切り拓き、ハウス40棟を建設し、クリスマスまでの出荷が実現しました。

しかし、イチゴ農家、浅川淳一さんは言います。

「多くの農家仲間が復帰して、また競い合える日まで、喜ぶことはできない」

岩手県で、宮城県で、福島県で。JAは、被災地を全力で支援してきました。

農作業や、医療・看護のボランティアの派遣。

食料、生活用品、義援金、無利子資金の提供。共済金の迅速な支払など。

様々な地域から、復興の便りが届きつつありますが、その道のりはまだ始まったばかりです。

2012年は、国際協同組合年。

国連は、お互いがお互いを支え合う「協同の心」が世界に必要なだと考えています。

そして、JAは思います。今の日本にこそ、支え合いが必要だと。

生活を取り戻すために。笑顔のある地域のために。身近に食のある明日のために。

協同の心とともに、皆様と一緒に。私たちは行動していきます。

<http://www.ja-kizuna.jp/>



大地がくれる絆を、もっと。 JAグループ